（個　人）　　（報告　　田　中）

山（山域・ルート）　岩木山、八甲田山（大岳）

【日時】２３年　９月２７日（火）２８日（水）

【メンバー】

田 中　　（計　１　名）

【行動記録】

①２６日　自宅（クルマ）１３時半発ー岩槻Ｉ．Ｃ－大鰐弘前Ｉ．Ｃ―嶽温泉

②２７日　登山口（５：２３）ー岩木山頂（８：２３）ー登山口（１０：５２）上り３時間１０分　下り２時間

③２８日　酸ヶ湯（７：２０）ー大岳（９：４１）ー酸ヶ湯（１２：１３）上り２時間３０分　下り２時間１０分

①岩木山（標高１，６２５ｍ）【２７日】

Ｐ（嶽温泉登山口）→八合目→岩木山頂→八合目→Ｐ登山口

②八甲田大岳（標高１，５８４ｍ）【２８日】

酸ヶ湯登山口→仙人岱→大岳山頂→上毛無岱→酸ヶ湯登山口

【装備・食料等】

携帯電話、ヘッドランプ、雨具、コンパス、地図、救急薬、ツエルト

水（３．０リットル）、食事（朝・昼食）、行動食

【感想】

岩木山嶽温泉登山道は稲荷神社の鳥居をくぐることで始まる。ぬかるんだ赤土の道は唐松林を抜けて、やがて、周囲は秋の陽ざしを浴びた明るいブナ林に変わり、足元も石ころがゴロゴロした道となってきた。展望のない道を２時間も歩くと、八合目ターミナルに出る。そこは何と広い駐車場で、レストハウスもある津軽・岩木スカイラインの終点である。車でここまで来られるのであった。しかも、この先９合目までは、リフトで行けるようである（運転開始は９時からなので、まだ停まったままであったが）。そこからは、１時間ほどで山頂に着く。空気はやや冷たいが、３６０度の展望で、日本海も望めた。山頂を独り占めで楽しんだ後、下り始めると、人がどんどん登ってくる。リフトも稼動し始めたようだ。下山途中、昭和３９年１月に吹雪の中、遭難した大館鳳鳴高校生４人の慰霊碑に寄る。山に登ると、必ずと言っていいくらい遭遇する慰霊碑、若い人が多いのも悲しい。ただ冥福を祈るだけである。

早く下山できたので、八甲田ロープウエイで田茂萢湿原を散策し、酸ヶ湯温泉へ。

２８日は酸ヶ湯温泉から仙人岱経由で大岳に登る。上り始めは、昨年、山菜取り

に来ていた女子中学生が火山ガスで死亡した事故もあり、至るところ脇道との分岐にロープが張られている。途中、青森の６０代の女性が小岳との分岐まで、そこからやはり地元の中高年の二人連れ男性が、大岳非難小屋まで、ガイド付きで同行してくれたので、八甲田山の理解をより深めることができた。晴天のおかげで、岩木山を眺めながら辿り着いた大岳山頂は、遠方は微かに霞んではいるものの、岩手山、鳥海山まで眺めることができた。誘われた井戸岳、赤倉岳への縦走に未練を残しながら、非難小屋から毛無岱へ下り始めると、景色は急に秋へと変わっていった。黄葉した低木、赤く染まり始めたナナカマド、草紅葉の湿原、点在する青い湖沼と雲ひとつない青空の間に、まだ夏の気配を残す八甲田の山々がいくつものピークを描きながら連なっている。上毛無の休憩用の広い展望台で、40 万年前の大爆発以後、ほとんど変っていないであろう壮大な景色を眺めていると、時間が止まってしまったような錯覚に陥ってしまう。しかし、そんなつかの間の静寂も、後ろから来た４０名ほどのツアーの団体の出現によって現実の世界へと連れ戻されてしまった。ベンチを譲り、喧騒を避けるように、再び木道を歩き始める。酸ヶ湯温泉からのもう一方の登山口から登ってくるハイカーも多い。こちらは、長い木の階段の急登もあり、仙人岱からの周遊の方が楽なようである。しばらく突出した岩木山を前方に眺めながら湿原を進んでいくと樹林帯に入り、やがて酸ヶ湯温泉に到着した。前泊者に対して、下山後、タオルのセット付きで無料入浴をさせてくれたのもうれしい。汗を流し、そこで食事を済ませ、酸ヶ湯を後にした。天気予報と睨めっこをしながら計画した山行であったが、２日とも天気に恵まれて、青森までの道中は少々遠く感じられたが、満足もそれだけに大きいものがあった。